第３日（12月５日）

８　杉﨑辰行 議員（質問方式　一問一答）

答弁を求める者　市長

防災・災害対応の前進を求めて―台風19号被害から見えること―

10月の台風19号では、焼津市も大きな被害を受けた。人的被害は免れたと聞いているが、浸水や波、風による家屋、工場、施設、道路、倒木、土砂崩れなど、容易には平常に復帰できないものも多数発生している。これにより、大変なご苦労を強いられている大勢の方々がでてしまった。これらは何故防ぐことができなかったのか、台風が原因とだけでは済まされない要因が、そこにはある。過去からの経験や知見が、活かされていないのではと言えることもある。このようなことを繰り返さぬよう、防災については常に最善の対策をする必要がある。それを実現させたいために質問する。

(1) 被害発生までの対応について

ア　被害予測をどのように想定していたか伺う

イ　台風19号の風雨が最大になりつつある時間、又道路冠水が始まる時間での、避難準備情報等について、発令までの経緯を伺う

ウ　避難準備情報等発令にあたりどのような対応をとったのか伺う

エ　各地避難所への対応と、地域で自主的に開設された避難所への対応について伺う

オ　道路冠水も含み浸水被害が出始めた時からの対応について伺う

(2) 被害状況と対応について

ア　被害状況をどのようにして把握したか伺う

イ　災害廃棄物も含み被害への対応について伺う

(3) 今後の災害対応について

ア　市役所庁舎前の道路冠水も含み、今回の状況から見えた課題は何か伺う

イ　これらに対する対応について伺う

９　秋山博子 議員（質問方式　一問一答）

答弁を求める者　市長

１　焼津の資源を生かした観光政策として美と健康の「ヘルスツーリズム」推進を。

美と健康をテーマにした「ヘルスツーリズム」の提案

健康長寿やアンチエイジングへの関心が、医療費削減の課題や、新たな市場の創出、雇用の拡大で地方創生を図ろうという機運を背景に、官民ともますます高まっている。そこで焼津市ならではの資源を生かした、新たな「ヘルスツーリズム」の開発と推進を求めたい。

昨年11月、新潟・山梨・長野・静岡の４県知事が「中央日本４県サミット」に集い「人生百年時代を楽しむための健康長寿の推進」をテーマに懇談し、長寿の秘訣の共同研究や情報発信、ヘルスツーリズム推進の連携が話し合われ、静岡県では、

健康をテーマにしたイノベーションに基づく、食品産業の高付加価値化の推進を表明している。

かつて焼津の情報誌を製作したおり、編集者に言われたのは、関東圏でこうしたマガジンが売れるのは、焼津特集と沼津特集だと言われたことがある。魚のまち、焼津という全国的な地名度は、ふるさと納税の実績を見ても今も健在であるが、焼津の資源はこれだけではなく、まだまだ磨きをかけ情報発信することができる、可能性のある資源が多彩である。

例えば、焼津といえばカツオやマグロと言われるが、これらの大型の回遊魚の身には疲労軽減物質のアンセリンが含まれていること。焼津市立病院が導入したがん健診DWIBS（ドゥイブス）は痛みがなく乳がん健診が出来ることで、女性たちに強力にアピールできるはずだ。また、黒潮温泉や海洋深層水を使ったタラソテラピー施設の存在は、ここ最近、マグネシウムの美容健康効果を評価するテレビ番組が続いたことで、女性たちの注目が集まると期待される。さらに、三重県の大淀海岸では、海辺を歩くだけでも潮風に含まれるエアゾール（海塩粒子）が自律神経を整え、リラックスできると言われる「タラソテラピーウォーク」を進めているが、長い海岸線を持つ焼津市こそ、取り組めるものである。

これら、食品、医療、美容健康、自然環境、それぞれを単体でアピールするだけでなく、これらの資源を編集しコーディネートした焼津流の「ヘルスツーリズム」の開発を提案したい。

ア　ふるさと納税の体験型返礼品の実績を分析し、観光政策に活かすことはできないか。市の方針を伺う

イ　食品・医療・美容健康・自然環境などを生かしたヘルスツーリズム開発の可能性について見解を伺う

2　要配慮者の防災力を高める、当事者参加の訓練や施策の充実を。

要配慮者の防災力アップに向けて。

さる10月の台風19号では焼津市も床上浸水２００件以上という大きな被害を被り、今後、詳細な状況調査をもとに、河川改修や被災者支援対策、避難情報発信やハザードマップの見直しなどが進められていくと受け止めている。被災した市民からは罹災証明書発行の手続きが非常にスムーズだったと感謝の言葉を聞いており、それぞれの担当課が災害発生に備え、迅速な対応に必要な研修を充実させていたことが伺える。

一方、障害を持つお子さんや高齢者を抱える家族からは「避難のタイミングが計れないまま怖い思いをした」「福祉避難所も一時避難所と同時に開設してくれたら」「今まで地震津波のことだけ考えていたが、水害となると避難の方法も変わってくることを思い知らされた」という声も届いている。これらの声を丁寧に聞き取りし、また被災地域の経験を教訓に生かして、今後の対策を練り直していただきたいところであるが、当事者の声にもあったように、水害への意識、内水氾濫への意識が、私自身これまで低かったことを痛感している。国では、個別の避難計画「マイタイムライン」の作成を進めようと指針の作成に取り掛かり、静岡県でもモデル事業を始めている。また、福祉避難所における当事者参加の避難訓練の必要性を認識し、取り組み始めた自治体もある。さらに、情報発信の多言語化も各地で導入されてき

た。課題は山積ではあるが、市民の防災力を高めるために施策の充実を求めて伺う。
ア　市は福祉避難所の運営マニュアルを整備しており、今後は当事者参加の避難訓練という段階だと考えられる。今後の計画を伺う
イ　個別の避難計画「マイタイムライン」についてどのように進めていくのか、方針を伺う
ウ　一般の避難所に福祉避難所の機能を少しでも備えることを求めたいがいかがか
エ　防災備蓄品としてダンボールの仕切りがあるが、さらに、プライバシー確保に有効な、紙製のパイプと布で簡単に組み立てられる「簡易間仕切りシステム」提供の協定締結を提案したいがいかがか
オ　多言語による防災情報発信は検討中とのことだがその後、導入の計画はいかがか

10　青島悦世 議員（質問方式　一問一答）

答弁を求める者　市長

地域社会をリードしていく職場目指して（市民にやさしい焼津社会をつくる）

職員の皆さんには、地域社会をリードしていただきたいことを考え、皆さんのワークライフバランスを考える

近年、ワークライフバランスの実現が国の重要課題の一つとなっております。そのような中、男性の働き方改革が将来の焼津市、如いては日本の将来を救うことになるのではないか。１億総活躍社会を主導する政府、多様な働き方が進む中、報道されているように、企業の皆さんも大きく取り組みが変わってきていると感じています。現在、団塊の世代が70歳代に突入し、当然職員の皆さんも同じ状況下にあるわけです。厚生労働省のデータによると、60代から70代の要介護率がグッと跳ね上がるそうです。また、団塊の世代の子供であるジュニア世代は晩婚化傾向にあるというのが現状です。まだ子育てが終わらないうちに介護が始まる。介護も女性の問題だけでなく男性の問題でもあるのではないでしょうか。そのような中で、若者の皆さんの子育てについて考えた時、二人目を生みたくなる地域社会にしたいものです。そのためには、男性の理解と協力が必要と考えます。特に、子供が生まれた後の男性の育休取得が重要な鍵となってきます。そこで、市職員の皆様のワークライフバランスを考え、地域をリードしていっていただきたいとの思いで伺ってまいります。

ア　職員の育休取得について

以上を踏まえて、平成30年度９月議会でCSはESからつまり市民満足度は職員満足度から、このような内容で伺っていますが再度関連事項として伺います。ユニセフ調査：男性育休制度で日本は世界１位だが…国連児童基金（ユニセフ）の世界の子育て支援政策に関する報告書で、日本は、男性の育休制度で１位の評価を得たが、「取得ケースは非常に少ない」と特異性も指摘された。女性については16位だった。世界一の制度でも、取得はわずか５％という調査結果があります。

(ｱ) 男性職員の育休取得状況

男性職員の育休取得状況を再度伺います

(ｲ) 平成30年度の職員の皆さんの時間外労働について

平成30年度の職員の皆さんの時間外労働について、各部署で時間外の多かった上位３件を示してください。（病院事務方も含む）

イ　５Sについて（職場の健全化とお互いのモチベーションアップに）

職員の皆様の「職場と健全化」について、お互いのモチベーションアップを目指して「５S」（ファイブエス）について考えてみます。５Sの定義は、“職場環境の維持・改善のために徹底されるべき５つの事項”というものです。ローマ字の頭文字であることから分かると思いますが、日本で生まれた概念です。整理（Seiri）・整頓（Seiton）・清掃（Seisou）・清潔（Seiketu）・躾（Situke）の頭文字Ｓをとったもので、整理から整頓、清掃と、躾に向かうほど実施・定着化の難易度が上がる。このため「５Sが徹底されている職場は、管理レベルが高い」と言われる。５Sは、製造業やサービス業などで用いられる、職場環境の維持・改善のためのスローガンです。この考え方を取り入れて実践するという考えはありませんか

ウ　部内でお互い助け合い補助しながら、安心して男性が育休取得できるには

庁内でお互い助け合い、補助しながら安心して男性が育休取得できるには、どのような状況が生まれ、働き方改革の一端を担うことができるか

以上伺い、地域社会をリードしていける職場になっていく事を願います。

11　岡田光正 議員（質問方式　一問一答）

答弁を求める者　市長

１　がん対策推進条例の制定を

(1) 焼津市のがん対策施策にはどのようなものがあるのか

ア　焼津市のがん対策事業でインターネット検索をしても「がん検診」を行っている状況が出てくるのみです。焼津市が実施している「がん対策に関する施策」を具体的に教えてください

イ　検診の推進だけで良いのでしょうか

(2) がん対策の推進に必要なことについて

ア　がん検診推進は、がん予防・早期発見に対する市民への啓発及び意識変革の第１の取組である。市内における職域を含む検診受診率は他市町と比べどうか

イ　受動喫煙防止条例の改正もされ、子ども、家庭における受動喫煙防止の規制が盛り込まれ、健康・がん対策への取組が強化されており、市民への啓発、意識改革の働きかけも「連動して」強化する必要があると思われるがいかがか

ウ　ＡＹＡ世代（思春期・若年成人）へのがん対策の充実が必要ではないか

エ　がん患者の治療と就労の両立を支援する環境の整備が必要ではないか

オ　さらに、こうした対策を推進するうえで、市が率先垂範して行政と医療関係者及び事業者等からなる、がん対策の更なる強化に向けた横断的な体制づくりを鮮明に打ち出すことが必要であり、そのためにもすでに藤枝市などで制定されている「がん対策推進条例」の制定が必要だと思われるがいかがでしょうか

2　台風19号の被害を教訓に今後の水害対策を万全に

10月12日未明より、台風第19号の影響で焼津市に大雨・暴風警報が発表されました。そして、7：10高潮警報が追加されていました。その後13：00ころに広報で、警戒レベル３の避難準備が発令されました。こうした経過をふまえ、本市の当日の指揮系統および時間経過に伴う対策状況について伺うとともに、その経験から、今後の対策にどのように生かしていくのかについて伺います。

(1) 今般の台風19号接近に伴う本市の対応について

ア　災害対策本部設置の後一連の対応がなされたと思うが、その際の市民に対する避難情報等が出される為に河川・海岸等の状況をどのように把握していたのか

イ　一部の人からではあるが避難準備の発令が出たので避難所に向かったが周辺までいったらすでに道路が冠水してひざ下まで水があり歩くのに危険を感じたため家に戻ったという方がいた。避難情報等に関する市民への情報連絡に遅れはなかったか

ウ　避難所の場所、数、広さ等に何ら問題はなかったか。避難してきた人たちの反応はどうだったのか

エ　市職員の対応、出動態勢に問題となることはなかったか

(2) 被害状況の把握は適切に行われたか

ア　市内の被害状況把握はどのように行ったのか。正確な状況把握ができているか

イ　各自治会ではそれぞれ地域の被害状況について各戸の聞き取りをしていたようだが、市ではそれらの集計などをしているのか

ウ　被害を受けた個人、法人等に対する支援はどのようになっているか

エ　ボランティアセンターの立ち上げはなかったようだがどうしてか

(3) 今回の被害を基に今後の水害対策に生かすことについて

ア　自治会の中には今回の冠水状況、家屋の被害状況河川の氾濫ヶ所を地図に落とし込んで今後の資料にしようとしているところもあると聞いている。焼津市でも同様のものを早期に作成しハザードマップの見直しを行う必要があると考えるがいかがか

イ　また、河川や雨水幹線などの土砂の堆積具合を把握し浚渫などを行っておく必要性があると考えるがいかがか

ウ　津波避難訓練は常に行っているがやはり、水害対応の避難訓練も必要かと思うがいかがか

3　老人憩いの施設新設を希望する

一色の老人福祉センターが閉鎖されすでに５年になります。その後、焼津さわやかクラブの皆さんを中心に何度か同様の温泉設備、集会室等を持ち、事務所機能も果たす施設ができないかと、話題に上ってはいるものの進展のない状況と伺っています。そこで新たな老人憩いの施設の新設について当局の考えをお聞きいたします。

老人憩いの施設に対する考え方について

ア　公共施設マネジメントのなかで以前の一色老人福祉センター同様の施設は検討されているか

イ　島田市の市立伊太なごみの里や藤枝市の藤美園といった施設と同様の施設と事務局を備えた施設を何らかの形て実現できないか。（新設できないか）

12　村松幸昌 議員（質問方式　一問一答）

答弁を求める者　市長、教育長

1　学校プールの利用状況と今後の活用について伺う

(1) 学校プール施設建設後の経過年数及び施設管理等についてお伺いします

ア　設立年数40年以上経過の施設もある現状から学校プールの管理運営状況と経年劣化について伺う。

使用期間中の管理運営状況を伺う

イ　最近の維持管理費等について伺う

年間維持管理費を伺う（工事修繕費、点検委託料、光熱水費等）

(2) 学校の水泳授業の現状について伺う

市内小・中学校の水泳授業について現状を伺う。

(ｱ) 学習指導要領における体育授業時間数とそのうちの水泳授業の実態について伺いう

(ｲ) 水泳授業における、水泳指導の実情を伺う

(ｳ) 水泳授業の必要性の認識を伺う

(3) 今後の学校プールの有効活用について

ア　学校授業以外に活用している実績を伺う

イ　現行以外の有効活用検討の有無を伺う

(4) 学校プールの改修・改築計画等今後の方向性について伺う

学校プールの今後の方向性を伺う

改修計画の有無を伺う

(5) 今後の学校プールの在り方等の検討の有無について伺う

ア　今後の学校プールの在り方に関して伺う

(ｱ) 学校における水泳授業が目指すものは何か伺う

(ｲ) プール運営上の費用対効果評価について伺う

イ　現状における問題解決に向け、政策展開するための調査研究・課題検討に向けての組織設置等今後の方向性について伺う

2　子育て支援での特徴ある施設と安心安全について

(1) 大井川児童センターについて伺う

ア　利用状況等は、どのような状況であるのか伺う

イ　大井川児童センターは、どのような特色があり、ターントクルこども館との機能分担等は、どのように考えているのか伺う

ウ　大井川児童センターの充実に関する要望への対応は、どのような検討状況になっているのかを伺う

(2) 保育施設等への安心安全と交通安全対策について伺う

ア　厚生労働省が促した「キッズゾーン」について、焼津市はどのような方針か伺う

イ　市内にある認可保育所・地域型保育施設ごとの交通安全対策についてどのように考えるか伺う

ウ　ターントクルこども館（整備中施設）は、保育施設ではないが、焼津市としての安心安全と交通安全対策の考えを伺う